

JICA 日系社会シニア・ボランティアの小澤道子です。アルゼンチンからお便りします。

日本は、台風や地震などの自然災害で大変なことになっていますね。被害に会われた方々に心からお見舞い申し上げます。

さて、ここアルゼンチンでは別の意味で大変なことになっています。

もうご存知の方も多いと思いますが、アルゼンチンはIMFから多額の借金をしたにも関わらず、経済の立て直しが一向に進んでいません。

私がアルゼンチンに着任した当初1ドル15ペソだった為替レートが、たった1年で2.5倍の40ペソ前後で値動きしています。驚きです。日本ではありえないことですね。



ブエノスアイレスでは毎日のようにデモがあるそうですが、ここサルタはそれほどありません。たまにデモがあっても、極力デモ行進から遠ざかるようにしていました。ところが、つい先日 友だちと待ち合わせていた喫茶店の前を、学生による大規模なデモ隊が通過していきました。通過するのに30分以上はかかったと思います。いろいろな人に事情を聞いてみると、アルゼンチンの大学では8月から授業がないそうです。アルゼンチンの公立大学は無料で、教授たちの給料は国や県が払っています。しかし、その給料が滞っているために授業が再開されていないとのことでした。



そんな矢先、朝テレビをつけると、9時30分からマクリ大統領が国民にメッセージを送るというニュースが入ってきました。私のつたないスペイン語力では大統領の演説をそのまま理解することは無理でしたが、下に表示されたテロップを見る限り『消費を控えましょう』、『この通貨危機を最後としてみんなで頑張りましょう。』という内容でした。内閣の閣僚数を半分に削減して、さらなるインフレ対策に臨むということだと思います。



出典：AMERICA TV（民営放送）9月3日放映

同じJICAシニア・ボランティアの友人からもメールが入り、『買占めがあるかもしれない』というのです。そういえば、日本でも石油ショックのときトイレットペーパーの買占めがありましたね。

サルタのスーパーを見る限り、今のところ買占めはありませんが、学生に聞いてみると、小麦粉と油はたくさん買ったとのことです。（トイレットペーパーは買っていないそうです。）

大統領の演説のあと、やはりいろいろ影響がでています。経済不安が拡張されたのでしょうか、経済的な理由で日本語の勉強をあきらめる学生がでてきています。そして、予定されていた移民祭が前日になって突然中止になりました（浮かれている場合ではないということでしょうか）。また、1月の夏休みに計画していた旅行のフライトが急にキャンセルになり、他の便にまわされました（ガソリンの節約でしょうか）。そういえば、スーパーの品数もすくなくなり、特売品も極端に減りました。

とは言っても、街にでてみると表面上はいつもの活気あふれた営みが続いているように思えます。 国民性のせいか、私たち外国人にはあまり悲壮感が伝わってこないのは何故でしょう。そして、アルゼンチンペソはどこまで暴落するのでしょうか。かつて繁栄を極めたアルゼンチンは、今大きな経済危機に直面しています。

